

## 第16回雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会 を開催しました！

### 1. 概要

- 「第9回雄物川圏域流域治水協議会」と「第16回雄物川圏域大規模氾濫時の減災対策協議会」を同日開催しました。
- 減災対策協議会における五ヶ年の取組状況や、流域治水協議会における流域治水プロジェクトの変更等報告した後、「逃げ遅れゼロ」に向けた取り組みの現状と課題や、流域治水の実装に向けた展望や今後の取り組みについて意見交換を行った。

### 2. 日時／実施状況 29の関係機関が参加

- 日時：令和7年2月13日(木) ➢ 会場：大仙市大曲交流センター(WEB併用)
- 出席者：秋田市、横手市、湯沢市、大仙市、仙北市、湯上市、男鹿市、美郷町、羽後町、三種町、五城目町、八郎潟町、井川町、東成瀬村、農林水産省西奥羽土地改良調査管理事務所、林野庁秋田森林管理署・米代西部森林管理署、国土交通省東北運輸局鉄道部、気象庁秋田地方气象台、森林整備センター東北北海道整備局秋田水源林整備事務所、東日本旅客鉄道株式会社秋田支社、東北電力株式会社秋田発電技術センター、秋田県総務部・農林水産部・建設部、秋田河川国道事務所、成瀬ダム工事事務所、玉川ダム管理所、湯沢河川国道事務所



湯沢河川国道事務所 松原所長あいさつ



会場全景(大仙市大曲交流センター)

### 議事内容

- 1) 雄物川水系大規模氾濫時の減災対策協議会及び流域治水協議会 作業部会 取組報告
- 2) 雄物川水系大規模氾濫時の減災対策及び流域治水プロジェクトについて
- 3) 馬場目川水系大規模氾濫時の減災対策及び流域治水プロジェクトについて

### 3. 主な意見・コメント等



秋田県河川砂防課長

- (秋田県河川砂防課長)
- ・近年の豪雨災害、特に令和5年7月の豪雨では、雄物川下流圏域や馬場目川水系などで甚大な被害が発生した。
  - ・秋田市の市街地については、秋田市とともに全国初の「太平川内水被害等軽減対策計画」に登録し、浸水被害の防止・軽減対策を加速させるとともに、旧雄物川流域6河川の特定期都市河川の指定を通じて、流域治水の取組の深化を図ってきたところ。
  - ・今後は、流域内の関係者が一体となり、浸水被害対策を総合的に推進するため「旧雄物川流域水害対策計画」の策定を進め、流域治水の更なる加速化・深化に向けた取り組みもあわせて進めていく。
  - ・関係機関が一体となって進めていくことが重要であり、県としても関係部局としっかり連携しながら取組を推進していきたい。



大仙市長

(大仙市長)

- ・災害時の情報伝達手段として、防災メール、SNS等活用し、多重化に取り組んできたが、システム入力作業に人手や時間を要していたため、令和6年6月より、防災メールからSNS等への一斉配信機能を追加し、複数の情報伝達手段で同時配信が可能となった。
- ・「逃げ遅れゼロ」を実現するには、迅速な避難情報の発令判断や避難経路の確保が重要である。
- ・流域治水の取り組み事例として、空き家跡地を活用した浸透型雨水貯留設備については、被害を軽減する対策として有効であった。
- ・内水被害軽減のため、可搬式ポンプの整備や排水ポンプ車を導入し、排水体制の強化に取り組んでいるところであり、来月には大仙市2台目となる排水ポンプ車(60m<sup>3</sup>/分)が納入される。
- ・大仙市では堤防乗越管を活用し、可搬式ポンプ及びホースを常設した迅速な初動体制を確立しているところ。
- ・これまで以上の機動力と排水能力を備えた排水体制を整えることで、被害の未然防止や内水氾濫の被害軽減を図っていきたい。



三種町長

(三種町長)

- ・三種町は3年連続で三種川が氾濫している状況である。
- ・三種川監視カメラのデジタルIPカメラ化及び周辺機器の更新を進めているほか、WEB/ハザードマップを公開し、平時においても危険箇所の把握や災害時の行動について、家族と話し合うよう町広報紙等で周知している。
- ・発災時には、的確な情報発信と地域住民の共助関係が重要であることから、自主防災組織の設立促進が課題である。
- ・近年の気候変動による豪雨の激化に危惧しており、三種川の水位上昇スピードも速くなっているため、より早い警戒情報の発信が肝心である。



西奥羽土地改良調査管理事務所長

(東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所長)

- ・秋田県における田んぼダムの取り組み状況は、令和元年と令和5年の比較から7.5倍と取り組みが進んでいる。
- ・大仙市様の田んぼダム取組面積が1,000ha以上と、秋田県全体の約半分を占めている状況である。
- ・雄物川流域は、今後田んぼダムの可能性が非常にある地域であり、農水省としても田んぼダムに関する支援策を拡充・推進しているところ。



秋田発電技術センター長

(東北電力(株) 秋田発電技術センター所長)

- ・夏瀬・神代ダムからの放流の際は、河川法に基づき、関係機関への通知通報、放流警報の吹鳴を行うとともに、必要に応じて河川パトロールを実施し、急激な水位変化を発生させない適正な放流操作を実施している。
- ・ダム操作の訓練施設により、定期的にダム管理に携わる職員に対し、技術力の向上を図る取り組みを継続していく。